

パーソナルの保護者通信

第2号 「家庭学習は是れ即ち幻想であり・・・」

保護者の皆様へ。いつも大変お世話になっております。

先週の通信でお伝えしたとおり、今回は家庭学習をしない子への対処についてです。最後の結論まで長いですが、是非ご覧になってください。

さて、当塾では入塾に当たりテストを課していません。様々な学力層の子たちがいて、「学校の授業についていけないので何とかしたい」「勉強の仕方が分からない」という生徒から「中学生だけど先んじて高校の学習をしたい」「東大合格を目指したい」という生徒まで、多岐にわたる学力層の子たちが在塾し卒塾していきました。こういった様々な生徒たちと触れ合い続け、またその保護者さんとお話する機会をいただいて知り得たことがあります。まずはその中から2つの事実を共有させていただきます。

【事実1】

親の言うこと(勉強しろ)を聞いて改心した生徒はなかなかいません。「親に勉強しろと言われて目が覚めました！これから頑張ります！」なんて子がいたらそれは奇跡の子です。実際には、なんだか気分の沈んだ様子の生徒に声をかけてみれば「親にまた勉強しろと怒られた」という悩みをぶちまけられることの多いこと・・・。親としては静観して我慢した挙句出てくる言葉のようですが、週に1度でもその言葉を浴びせられると、子からしたら「いつもそんなことを言われる」という追い詰められた感覚になるようです。

逆に、生徒が突然やる気を出して勉強しだせば、その理由は殆どの場合「学校の先輩や兄姉といった尊敬している年上の影響」、「友達との勝負や約束」です。そこに「親」はなかなか挙がりません・・・。(医師、看護師(看護職)は例外で、親がその気でなくても、子の方は親を理由に掲げその道を目指すことにしたという話をよく伺います。)

【事実2】

家庭学習をする、しないは学力関係ありません。多くの生徒は家庭学習をほとんどしていません。面白いのは、勉強ができる生徒、学力的に優秀な生徒の方が、「家で勉

強なんて集中できないからしない！」と主張している傾向があることです。それも自信あげに(笑)。

私自身この教室の勤務がかれこれ5年目になり、以前勤めていた塾(高校生専門塾)では、100名程度の高3生のうち難関大を目指す成績最上位の生徒たちを担当して集団、個別問わず指導していました。そこでも同じです。生徒に尋ねれば、家では勉強なんて集中できないからしないと。

家で勉強に集中できる人は一人もいない！なんていうつもりは毛頭ありません(私自身、今も家でよく勉強しています)が、そういう人間は少数派であることは事実です。トップ進学校では、自習目的で使いやすい公共のワークスペースが生徒間で情報交換されていることが珍しくありません。「家では勉強ができないから、外で勉強できる場所を探す」という思考で、大変理に適っています。時間料金制のところにお小遣いを投入して、お金をかけているのだから集中しなきゃだめだ、と自身に言い聞かせるという何とも健気な話も聞きます。

と、以上2つを前提としまして“家で勉強をしない子”への対処法について本題に入ります。ここからは私の考えであり提案でしかありませんが、自信を持ってお伝えすることです。

【対処法1】

親から子に、一緒になって勉強する姿を見せることです。

前提の事実としてあるように、親から子へ何か言葉を投げかけてもそれがプラスに働くことは稀です。悲しいほど、子は親の言葉をその言葉通り受け取りません。だからこそ、言うのではなく行動で示す、ということです。

家庭学習を習慣にしている生徒は、例えばお父さんが資格の勉強をしている姿や、例えばお母さんが毎朝5時から1時間程度、前日の残った仕事の作業をこなしている姿を見ていて、一緒に勉強しようと誘われてからやるようになったと言います。家で勉強するという行動をやって見せることで、自然とその習慣が子に移っていきます。

【対処法2】

集中して取り組めないのなら塾に行ったらどうかと提案することです。

「今日の夕方は家に誰もいないから、迎えに行くまで塾に寄って勉強しててね」など理由をつけて遠巻きに誘導することも一つの手。それが今後の学習習慣に繋がればいいのです。

まずは「家とは別の集中できる場所で勉強する」。勉強習慣が身についてきて、「家でも勉強できるようになる」。これが黄金ルートです。

幸いなことに当塾は火水木金土の14:00-22:00を自習スペースとして開放していますから、放課後の自習スペースには困らないはずです。(送迎のご都合などもあるかは存じますが……)

ちなみに、当塾を自主学習の場として利用していただいている生徒は多く、その方法は様々です。

- ・塾の授業がある日に1時間早く来て勉強する
 - ・学校終わりに少し寄って、30分から1時間ほど勉強して帰る
 - ・休みの日に何回かに分けて2、3回塾にくる
- などなど。どれも良い使い方だと感心しています。

自習生で部屋が埋まることは基本的にないのと、いざとなればスタディーフィールド宇都宮東教室の利用も可能です。こっちでは土日は朝8時から教室を開放していますので思う存分勉強ができます。是非、塾に行くことをご提案なさってください。

以上、これにて今回お伝えする対処法は全てです。が、最後に1つだけ。

「うちでは完全に家庭内勉強時間も内容も親が管理しているから大丈夫！」という方、もしいらっしゃれば、要注意です。それは果たしていつまで続けられるのでしょうか？大学受験を本気で目指せば、1日12時間の勉強なんて普通の世界です。そのすべてを管理するのでしょうか？そして大学生になってからも管理を続けるのでしょうか？在学中にお子様は二十歳を超えます。

学習管理し続けるということは不可能ですし、できたとて、お子様本人も自律して勉強に関心を持つことがないままです。高校生になったら一人でできるようになってもらう！というのも基本手遅れです。高校生になれば、ハッキリ言って勉強はやって当たり前、量はしっかりこなすうえで、いかに効率的にやるか？の世界です。学習面を管理し手塩にかけて育てた挙句、“無気力大学生”爆誕！！なんてことにならないためにも、「勉強を親が管理する」ことは、親側に相当の覚悟が無ければいい結果を生まないのです。

今週もご覧いただきありがとうございました。

種市 匠